廿六日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷所　福島縣石城郡平町紺屋町十四
發行所　福島縣石城郡平町紺屋町十五　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日休刊）

早くも人氣を呼ぶ
三十日の平町會
水道起債、町議失格、電燈料値下等 激論を豫想さる

平町會は三十日午後一時から開き

▲緊縮實行豫算内容の件
▲傳染病豫防費其他追加豫算の件

について協議する事になつたが當局提案の事項は以上二つだけであるけれども、町會議員間に於て過般來寄々協議中であつた雜した事件、平水道擴張工事起債に關する件、その他坂本、綠川町議失格問題等注目を惹いてゐる問題について質問、建議等あり、議員間に火花を散らす論戰が試みらるゝものゝ如く、早くも人氣を呼んでゐる。

預金切捨てについて
磐銀に再交渉
預金者總會で決定

磐城銀行に公金を預金してゐる公金預金者總會は既報の如く二十五日午後一時から平町磐城訓盲院に開き過般磐城銀行に於て發表した整理案について同行取締役白井博之、草野順平兩氏出席して詳細な説明をなした後之に對する態度について協議したが、大多數の意見は

一般預金は株化し將來配當をうける見込みがあるが、公金預金は一割五分切捨てのわけであるが、この一割五分に相當する金は今日から十年後年賦償還が全部濟んだ後で好いから拂つて貰ひたい。

といふ事に纏りこの事を再び磐城銀行に交渉する事として午後四時散會した、尚ほ近く委員が磐城銀行に同樣の交渉を行ふ筈である。

江名、小名代表
出縣陳情
大敷網事件の損害賠償について

小名濱大敷網の契約確認訴訟の結果小名濱、江名兩漁業組合は高橋亘氏に對する契約破棄により損害賠償金五萬五千八百余圓を支拂ふべしとの判決があつたことは既報の如くで、これによりでなく右賠償金の支拂によつて破滅の運命に陥らしむるものであり且つ該問題の經緯から見ても兩漁業組合がかゝる巨額の賠償金を支拂ふことについてはに依つては兩漁業組合の存立に甚だ不服であるとして兩漁業組合の聯合幹部會を過般開催し善後策を協議した結果兩漁業組合は縣の移命通牒「本縣人に限り經營せしむること」とあるを遵守し實行したのであるからこの際當局に問題の事實を陳情して救濟方法を講じて貰ふ事にせんと江名、小名兩組合から太清左衛門、水野政次郎、加澤一造、遠藤俊一郎外數名は二十四日出縣野上水産課長、金森内務部長小柳知事を訪れ陳情しその足で千二百三十六圓三十錢が前組頭大和田正意氏當時より會計帳簿も關する事故組合としては死力して同村々會議員星清治郎が内調査中なるが去る十六日同村村會開催の折現組頭伏見直重氏に其使途を糺したるに其答辯に依れば村信用組合に全部貯金しありとの事なるが同組合には三百五十圓一口と百五十圓一口計五百圓あるのみにて殘額は行衛不明なるに驚き大騒ぎを演じたるが中村署より佐々木、中島の兩巡査部長同村に出張し秘密裡に調査中なるが一大疑獄が持上るだらうとの事である。

一年五ヶ月かゝつて
漸くや葉書が届く
平警察署に宛てた三枚

二十六日朝平警察署に、差出してから一年五ヶ月經つた葉書三通が而も紙よりで束ねて配達された。

一通は猪苗代警察署草野巡査が昭和三年八月十七日猪苗代郵便局に差出した平警察署佐藤弘氏に宛てたもの、他は昨年八月十七日若松郵便局に坂東範資が平署伊藤榮次氏宛に出したもの、他の一通は本年一月六日信夫郡佐倉村松野茂三郎が平署佐藤弘氏に宛てた年賀狀である。

右三通共遲配された何等の理由書なく他の郵便物と共に配達されたものでどうしたわけか近頃珍らしい事だと評判されてゐる

▲町村事務講習會
石城郡町村長會の町村事務講習會は十一月十一日、十二日兩日平磐城訓盲院に開き縣本田主事小林事務官、安田屬の縣稅賦課徴收、町村會の職務權限、町村吏員の權限についての講話がある。

▲四倉火防督勵
四倉消防組では火防時期に入つたので二十五日消火器試驗及び竈檢査を行つた。

石城五大炭坑
對抗体育競技
二十七日磐中校庭で
應援團五千名の豫想

石城郡五大炭礦磐城、入山、古河、三井、福島の從業員体育競技大會は二十七日磐城中學校庭で擧行されるが、當日午前八時半選手百三十七名の入場後唐土名入り込む豫想で盛賑を極むる見込みである。

石城郡五大炭礦磐城、入山、古に關する注意、伏見平町長の祝辭があつて午前九時から競技に移る筈で、競技は對抗競技であるため各炭礦からの應援團五千名入り込む豫想で盛賑を極むる見込みである。

原町通信

上眞野消防組の
基本金行衛不明
中村署活動開始

相馬郡上眞野村の消防組基本金千二百三十六圓三十錢が前組頭大和田正意氏當時より會計帳簿には明瞭に貯蓄してある如く記載しあるも昨今不審の点ありと村會開催の折現組頭伏見直重氏に其使途を糺したるに其答辯に依れば村信用組合に全部貯金しありとの事なるが同組合には三百五十圓一口と百五十圓一口計五百圓あるのみにて殘額は行衛不明なるに驚き大騒ぎを演じたるが中村署より佐々木、中島の兩巡査部長同村に出張し秘密裡に調査中なるが一大疑獄が持上るだらうとの事である。

荷馬車
汽車に飛さる

常磐線上り客車第二三〇列車が二十四日午前十時十分頃相馬郡日立木驛を發し上眞野村字横手の看視人無き踏切に差蒐りたる時同郡中村町字曲り田櫻井文治雇人荒松太郎（二二）が荷馬車に木材を積み放馬をして列車の來るに氣附かず馬は同踏切を横切らんとして列車に跳ね飛ばされ馬は其場に即死、車は目茶苦茶に破れたる騒ぎに同列車は鹿島驛着三分遲着した。

御大典
紀念章傳達

平町長伏見彦衛氏外百九十四名に對する御大典紀念章は二十五日平町役場に到達したので平町では十一月一日元平商業學校庭に於て傳達式を行ふ事になつた。

▲伊勢參宮團募集
相馬郡大甕村小濱圓明院泉東海侶主催で伊勢參宮團体を募集中であるが原町出發は十二月十三日甲種會費は一名に付き五十八圓八十錢旅行日數は十六日間、乙種會費は一名十七圓八十錢旅行日數は五日間にして伊勢解散とす。

小高、金房、福浦
体育競技
相馬郡小高、金房、福浦の三校聯合体育競技會は來る三十日福浦校庭に於て擧行する筈なるが優勝旗奪取戰の事として目下各校共に猛練習中なれば當日は定めし賑ふ事であらう

▲相馬新米相場
相馬郡南北部共兩三日前より一般稻刈りを始めたが、品質良好なるも天候の關係上乾燥不充分を氣支へ居る模樣であるが新米相場は一俵十一圓三四十錢見當であると。

▲訂正　秘法秘傳の名灸者天眞齋眞浪氏は本月十三日より十一月十二日迄當地に滯在し施術を行ふ筈なるが十月末日とあるは誤りにつき訂正す。

▲五巡査出張
平警察署では茨城縣下の特別大演習警戒のため左の五巡査を派遣する事になつた。

▲穗積佐平（玉川）▲佐藤雅之助（綴）▲星勝之丞（平）▲菊地作之助（平）

▲江名養鶏組合
石城郡江名町では養鶏組合を創設すべく町農會が奔走してゐるが會員約二十余名に達したので近く發會式をあげると。

▲清野會長歸平
平町南町看護婦會長清野きよ女史は大阪市に開かれた全國産婆大會に本縣を代表して出席したが二十五日夜歸平した。

▲赤津巡査出張
四倉署赤津巡査は特別大演習取締りのため十一月八日出張する。

▲四倉組頭會
四倉警察署管内二町四ヶ村の消防組頭會議は二十六日午前九時より四倉署に開き本年度秋季檢閲について打合せた。

▲アグリ船進水
四倉仲町石井鐵三郎及長谷川榮吉の兩氏は此程工費二萬三千圓で昭平丸を新造進水した。

▲宮川左近來る
四倉座では二十六日より宮川左近一行にて讀物は十八番の乃木將軍、孝子辻うら實外一席。

式年遷宮奉拜並巡禮記 (二)

平消防組頭　井上茂作

先づ早朝より外宮を拜し山田驛出發奈良驛正午着、早川氏を縣廳に訪れ同氏の厚意を以て法隆寺へ電話にて紹介あり而して自動車を出し呉れたり法隆寺は同縣生駒郡法隆寺村に在り、法相宗三本山の一にして用明天皇の御素顔を遂ぐる爲め推古天皇及聖德皇太子の御素顔御草創に係り、推古天皇十五年即ち西暦六百七年に完成し給へる由緒最も尊き大古刹にして、太子本願七寺の隨一たり、草創以來前後一千三百年七堂伽藍儼として存し、御燈炳として輝き佛教史上特に藝術史上飛鳥時代の代表的建築と天平藤原、鎌倉、足利各時代の諸殿堂即ち金堂塔婆中門廻廊等の聖院伽藍を初め、上宮王院舍利殿繪殿傳法堂等東院の伽藍は甍を並べ其内特別保護建造物二十七棟之に安置所藏せらるゝ根本の御本尊藥師三尊佛の外、無慮百有數点は一として崇高善美の極致にして、代表的古代文化の結晶表現ならざるはなく當時の文化を追憶して讃仰憧憬内外の凝視する處なり、斯る由緒深き世界的文化を維持保護すること當然過ぎる程當然なりと謂ふべし、生之を憂ふるや久し曩きに文部、内務兩當局に建言書を提出したるも是が爲なり、消火の設備として水道を布設し總工費二十九萬五千圓内二十四萬五千圓は古社寺保存費、即ち國庫補助の恩典に浴したるものなり此機會に於て防火、消火の二種あることを述べて見たいと思ふ。

防火設備とは、元來火災に罹らぬ建物即ち不燃性物假令は鐵筋コンクリート、石造煉瓦其他の倉庫又は防火壁の如き若くは屋上制限法を布き、飛火を防ぎ類燒、延燒を少なからしむる方法も其一なり、要するに火災の起因を防止する設備を防火施設と謂ふべし、然らば消火設備とは如何なるものを指すかと云へば、火災發生したる場合に使用する水利水道の如き貯水池又は消防機械器具消防の組織操法の訓練等此等の部類を消火設備と稱するを妥當とすべし、防火と云へ消火と云ふも何等差支なきも、防火消火の專門語ある以上は、之を分類すること當然の歸結とすべし、然るに水道の如き全然消火の使命の爲め設備したるものに對して防火の語を用ゆるは適當なりとは云ひ難し、何となれば防火とは火災を發生せしめざる設備、少なくとも火災の起因を減少せしむる設備を云ふのであつて、水道の如きは火災發生したる場合のみ消火用として威力を發揮する性質のものにて火災發生前の防火用としては此の効力存在せざればなり、既に防火力、消火力此二ツの用語ありとせば實際に區別あるは勿論なるに法隆寺の水道布設目論見書設計書を見るに、防火水道と書しあり殊に普通消火栓と稱するものに對しても、防火栓と命名したることは防火消火の用語が混同し不便を感ずる場合なきか、器具の名稱を正確に爲し置かざれば注文の場合などに於ても種々の支障なしとは限らず、敢て一言私見を加へたる次第なり、唯々嬉しく感じたるは法隆寺の水道消火に接手金具を町野式を採用せしこと是なり。

三人殺しを逮捕するまで

小田部警部(寄)

(十七)

信夫郡中野村字大瀧
牛方　黑沼好廣
當三十七年

なるものあり、同人は葡萄澤山林より牛にて木炭を運搬し其賃金(一日に付金一圓五六十錢)の收入にて辛ふじて娘子二人(妻は昨年死亡)を養ひ居るものにして、赤貧洗ふが如き生活を爲し居るも、賭博を好み剩へ被害者千萬吉より金四十圓余の借財あり之れを七月二十四日迄に返濟せねばならざる期間切迫し居り、現に當日(二十四日)は朝從來の如く牛を引き、自宅を出發し葡萄澤山に至り正午間近かにありて千萬吉と山田際四郎の小屋前にて面談し、都合惡しきに就き今七日間位待つて呉れと借金の申譯をして立別れ其後木炭を荷はせ同夜午後九時頃自宅に歸りたる事實あり本人を取調ぶるに、其の申立と一致するも借金の返濟を迫られ、而も金策の目當無き点より觀察するときは、疑ふべき余地あり、依つて當夜の行動に就きて本人を取調ぶるに午後九時頃歸宅後夕食を爲し就寢したる旨申立てたるも、果して外出せざるや及び同人の着衣其他に就き證據となるべきものを物色せるに、本人の着衣に血痕樣のもの附着せるを發見せりとの刑事巡査の報告に接したり。以上の狀況にして、二人の嫌疑者を發見し更に一段の努力を拂ひ捜査續行したるに、黑沼好廣は全く當夜は外出したる形跡無く容疑の点なきに至り茲に於て犯人は紺野義見に相違無しとの信念愈々固きを加へ、八月八日同人に對し五十錢銀貨二枚置きたる後の事及其他惡々と言聞かせ取調べたる結果、流石强情なる同人も良心の苛責に堪へず漸く左の犯行を自白するに至れり。

佛國マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー・ブランク・白
マルソー・ルージ・赤　ℱ1.10
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

印刷物は加納活版所

平町田町(電話五一三番)
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科　レントゲン科

滋養、强壯劑として愈々好評
偉大なる藥酒「粟守酒」
朝の一盃は精力の源泉、晚の一盃は休眠の助力
粟守酒特約店　大平屋藥店
代價八日分壹圓九十錢　平町一丁目(電四六二)

第二回巡業
御披露特別大興行
關東浪曲　親睦會女流團大一行
當る十月二十八日二十九日午後五時花火合圖開場
聚樂館
入場料　各地共金一圓之處御披露興行の爲め　平土間大人金四十錢

胃腸　内科　十二指腸虫病　婦人病　淋病
梅毒　皮膚病
專門
松村性病胃腸科醫院
(平南町　電話一七〇)

耳鼻咽喉科
氣管食道科　專門
病室完備…自炊の便あり
平町南町
電話一七〇番　大和田醫院

ユラノスケ粕取燒酎發賣
二合白瓶二十五錢(空瓶交換仕候)
平町四丁目平驛通り
永山酒造店總發賣元
電話二〇七番

支那六神丸
特約店　平町五丁目　山野邊藥局

毎度御ひいきに預りまして有難ふ御座います。皆樣御機嫌よく御過し遊ばされ誠に悅ばしく存じます。扨て弊店儀昨今の景氣に鑑み人氣回復の策として再び開業當時の職人を招き本日よりゑび天ぷら。カキフライを始めました從來より一層勉强致します。一度御試食の上倍舊の御引立を御願ひ申上ます。
平田町
電話四番　やぶそば